



第33回全国豊かな海づくり大会 ～くもと～
(式典、平成25年10月27日 熊本県熊本市)

CONTENTS

第33回全国豊かな海づくり大会について	2
	増殖推進部 栽培養殖課
みなみまぐろ保存委員会 第20回年次会合の結果について	5
	資源管理部 国際課
回遊魚	7
	漁政部 加工流通課 水産物貿易対策室長 廣山 久志
平成25年10月分のプレスリリース	8

第33回全国豊かな海づくり大会について

増殖推進部 栽培養殖課

去る10月27日(日)、第33回全国豊かな海づくり大会が、「育もう^{はぐく} 生命かがやく^{いのち} 故郷の海^{ふるさと}」をテーマに、第33回全国豊かな海づくり大会熊本県実行委員会と豊かな海づくり大会推進委員会の共催のもと、農林水産省、環境省の後援により熊本県熊本県立劇場(式典行事)及びエコパーク水俣放流会場(海上歓迎・放流行事)で開催されました。

全国豊かな海づくり大会は、水産資源の維持培養と海の環境保全に対する意識の高揚を図るとともに、水産業に対する認識を深めていただくための国民的行事として、昭和56年度から毎年開催されており、天皇皇后両陛下には、皇太子・同妃殿下の時代から御臨席いただいております。

式典行事は、天皇皇后両陛下御臨席のもと、大会旗入場に引き続き、松本忠明熊本県漁業協同組合代表理事組会長による開会のことばで始まり、主催者を代表して大会会長である伊吹文明衆議院議長が、「このところ、異常気象に伴う自然災害が多発しています。今大会も台風27号の襲来のため一時は開催が危ぶまれ、また、先般は、海に囲まれた伊豆大島で貴重な人命が失われました。お亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げ、被害にあわれた方々に心よりお見舞いを申し上げます。」との冒頭の挨拶の後、大会史上初めて3会場で行われる事に対する関係者への感謝のことば、放流会場である水俣湾は、かつて水銀により汚染され多くの人々が健康を損ない、いわれのない差別や偏見に苦しんできたこと、関係者のたゆまぬ努力によりかつての美しいきれいな海として再生したことなどに触れられつつ、「先日水銀に関する水俣条約がここ熊本県で採択されましたが、未だに国内外を問わず各地の海洋汚染の事例はあとを絶ちません。主権者たる国民から選挙を通じて主権を委ねられている我々国会議員は、水俣におけるつらい経験を教訓に、海や湖沼・河川の環境保全や水産資源の保護・管理に引き続き努力していきたいと思っております。」と述べられ、結びに本大会のためご苦労をいただいた関係者に御礼のご挨拶を述べられました。



大会ナビゲーターの宮崎美子さんと大会キャラクターのくまモン

続いて、歓迎のことばとして蒲島郁夫熊本県知事が、「涼やかな秋空の下、本日ここに、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「第33回全国豊かな海づくり大会」を開催できますことは、私たち熊本県民にとりまして、この上ない喜びです。」と挨拶され、熊本県は、日本三名城の1つである熊本城や世界農業遺産に認定された阿蘇、日本最大の干潟をもつ有明海などの紹介に触れ、また、かつての豊かな水俣湾を取り戻し、水俣市は「環境モデル都市づくり」に取り組み、「環境首都」の称号を受けていることから、この大会を通じ、全国の皆様に再生した水俣の海を御覧頂きたい旨の歓迎のことばを述べられました。

その後、功績者団体等への表彰式が行われ、伊吹文明大会会長、林 芳正農林水産大臣、石原伸晃環境大臣、本川一善水産庁長官、蒲島郁夫熊本県知事がそれぞれ功績があった団体等の受賞者に表彰状を授与されました。

続いて、作文コンクールで大会会長賞を受賞した、熊本県立芥洋高等学校3年大野三城さんが、最優秀作文「天草宝島の蒲鉾店を目指して」を朗読しました。

(一部原文どおり)

「海風に運ばれる潮の香り、時折聞こえるハイヤ節の音色、ポンポンと聞こえる漁船のエンジン音。私が生まれ育った牛深は、天然の良港で、古くから海運業の中継基地として、また、鰯や鯉漁で栄えた所でもあります。南風を待つ船乗りたちが、酒宴を開き陽気に唄い踊った「牛深ハイヤ節」は、全国40カ所のハイヤ系民謡のルーツともいわれています。以前はこの町も、漁業や水産物の加工業が盛んで町も賑わい、活気にあふれ、祖母や父の蒲鉾店も繁盛したと聞いています。しかし私が生まれる前頃から、鰯や鯖が獲れなくなり、数多くあった巻き網船団も次々と廃船して、町は活気を失い始めました。」と、はきはきした口調で朗読が始まりました。



式典行事（各賞表彰）

作文内容は、このような時代変化とともに、天草市牛深町から苓北町に引っ越すこととなり、お父さんはこの苓北町で鰯のすり身専門の蒲鉾店を再開、4年ほど前から地元商工会を中心に、特産品の開発などに取り組んでおり、「苓北バーガー」なる特産品開発のパーティとして使われているのが、この受賞者のお父さんが開発した「アジのテリーヌ」とのこと。天草では、地域興しとして休耕田を利用したオリーブ栽培を進め「オリーブの島・宝島」にしようと、様々な食品開発に取り組み、同高校でも試行錯誤しながらもオリーブオイルと魚を使った食品開発などを手がけ、自分たちの代で何とか製品化の目途をつけたいと父に負けないように努力しているとのこと。試作品に没頭する父の姿を見つつ、また、自らも高校で製品開発を手がけ、「蒲鉾店は自分の代で終わりだ」と言っている父の姿に対し、祖父の代から続けている蒲鉾店を絶やすべきではない。これまでの商品に付加価値を付けること、今までにない商品開発に着手することなどで突破口は開かれるといった内容で朗読し、最後に、将来天草で多くの人に愛される蒲鉾店を開きたいと力強く発表すると、会場からは大きな拍手が起こりました。

続いて、両陛下より漁業関係者に後日県内各地に放流される「ヒラメ（方言名カレイ）」「カサゴ」（方言名 ガラカブ）のお手渡しが行われました。

式典行事の最後として、岸宏大会推進委員会会長が、「今日まで開催されてきた「全国豊かな海づくり大会」の意義と、「育もう 生命かがやく 故郷の海」を合言葉に、新たな決意を持って豊かな海の環境を守り育ててゆくことをここに決議する」と大会決議を宣言すると、満場の拍手で採択され、大会旗が次期開催県の荒井正吾奈良県知事へと引き継がれました。

式典終了後は、会場をエコパーク水俣放流会場に移して、海上歓迎・放流行事が行われました。熊本民謡の歓迎演奏や430年前から伝わる伝統芸能“水俣の棒踊り”で天皇皇后両陛下をお迎えすると、両陛下は満面の笑みで御覧になっておりました。続いて、力強い和太鼓（雅太鼓）の演奏とともに、海上からは熊本県取締船「あまくさ」に続き、熊本の3つの海を象徴する漁船・漁業の紹介アナウンスとともに雄大な歓迎パレードが行われ、海上は晴天にも恵まれ大いに盛り上がり、大漁旗を掲げる漁船の乗組員が海から陸に向かい手を振ると、両陛下も終始笑顔で手を振られお応えになりました。

放流行事では、最初に両陛下がカレイを御放流、2回目にはカサゴを御放流され、併せて招待者も同種の魚の放流を行いました。

放流行事が終わり、天皇・皇后両陛下をお見送りしたあと、林農林水産大臣と本川水産庁長官は、伊吹衆議院議長に続き放流会場近くにある「水俣慰霊の碑」を訪れ供花されました。



式典行事（最優秀作文の発表）

今回の大会は台風の接近により開催が危ぶまれ、関係者はヒヤヒヤものでしたが、大きな影響も無く大会当日には天候にも恵まれ、心地よい秋風とともにすがすがしい中で天皇・皇后両陛下をお迎えすることが出来ました。また、26日、27日の両日には、両陛下を奉迎しようと沿道に約7万人を超える県民の方々が日の丸を振って歓迎したとのことでした。

ここ熊本県においては、有明海、八代海、天草灘の三海域からなる豊かな漁場が広がっており、それぞれの海域の特性に応じた沿岸漁業や海苔・魚類等の養殖漁業が営まれ地域産業に重要な役割を担ってきましたが、この恵まれた資源を守り、豊穡の海という財産を、将来に引き継いでいくという趣旨が地元熊本の皆さんにも伝わったことではないでしょうか。

第34回大会は、平成26年秋に奈良県と豊かな海づくり大会推進委員会の共催により奈良県内で開催（大会キャラクター“せんとかん”）されることとなっています。



式典行事（大会旗引継）

第33回全国豊かな海づくり大会 大会決議

我が国は四方を海に囲まれ、その海からの恵みは、国民に豊かな生活と優れた食文化をもたらしてきた。

ここ熊本県は、九州の中央に位置し、世界に誇る二つの国立公園をはじめとする雄大な自然と豊富な水資源を有している。

西部には、有明海、八代海、天草灘の三海域からなる豊かな漁場が広がり、それぞれの海域の特性に応じた沿岸漁業や海苔・魚類等の養殖漁業が営まれ、地域産業の発展に重要な役割を担ってきた。

私達には、我が国の恵まれた水産資源を守り、豊饒の海という財産を、将来に引き継ぐ重要な責務がある。

我々は、今日まで33回にわたり開催されてきた「全国豊かな海づくり大会」の意義を再確認し、ここ熊本県において、「育もう 生命かがやく 故郷の海」を合言葉に、新たな決意を持って、豊かな海の環境を守り育ててゆくことをここに決議する。

平成25年10月27日
第33回全国豊かな海づくり大会

第33回全国豊かな海づくり大会 受賞者一覧

【功績団体】

<栽培漁業部門>

大会会長賞	奈良県	大股漁業生産組合
農林水産大臣賞	福岡県	下筑後川漁業協同組合
環境大臣賞	熊本県	水俣市漁業協同組合
水産庁長官賞	宮崎県	宮崎県資源管理実践漁業者協議会（カサゴ延縄部会）、 （一財）宮崎県水産振興協会

<資源管理型漁業部門>

大会会長賞	熊本県	天草漁業協同組合五和支所
農林水産大臣賞	高知県	すくも湾漁業協同組合
環境大臣賞	北海道	藤本 隆治
水産庁長官賞	秋田県	有限会社台島大謀

<漁場・環境保全部門>

大会会長賞	熊本県	川口漁業協同組合
農林水産大臣賞	鹿児島県	山川地区藻場保全会
環境大臣賞	宮崎県	平岩採貝藻グループ
水産庁長官賞	福島県	相馬双葉漁業協同組合 松川浦支所干潟保全協議会

【作文コンクール】

＜小学校低学年の部＞

大会会長賞	古川 榛迦	佐賀県唐津市立小川小学校 1年
農林水産大臣賞	太田 咲希	鹿児島県学校法人神村学園初等部 2年
環境大臣賞	猪西 宏行	熊本県熊本市立川口小学校 2年
水産庁長官賞	赤崎 真歩	熊本県苓北町立坂瀬川小学校 2年
熊本県知事賞	池田 恭盛	熊本県玉名市立大野小学校 2年

＜小学校高学年の部＞

大会会長賞	原口 真依	佐賀県みやき町立北茂安小学校 4年
農林水産大臣賞	中野 美羽	鹿児島県薩摩川内市立手打小学校 5年
環境大臣賞	寺岡 海	熊本県苓北町立富岡小学校 5年
水産庁長官賞	江口 幸太	熊本県上天草市立維和小学校 4年
熊本県知事賞	北川ほのか	熊本県和水町立菊水中央小学校 6年

＜中学生の部＞

大会会長賞	大瀬 果穂	熊本県芦北町立佐敷中学校 3年
農林水産大臣賞	日高飛佑佳	鹿児島県三島村立大里中学校 1年
環境大臣賞	杉本 麻以	熊本県水俣市立水俣第二中学校 2年
水産庁長官賞	花牟禮美月	鹿児島県志布志市立志布志中学校 2年
熊本県知事賞	藤本希代美	熊本県上天草市立維和中学校 3年

＜高校生の部＞

大会会長賞	大野 三城	熊本県立苓洋高等学校 3年
農林水産大臣賞	久保 直美	鹿児島県立川辺高等学校 3年
環境大臣賞	福田 誠	熊本県立苓洋高等学校 3年
水産庁長官賞	帖佐 智也	鹿児島県立鶴丸高等学校 1年
熊本県知事賞	濱崎 美里	熊本県立芦北支援学校 高等部 佐敷分教室 2年

【写真コンクール】

大会会長賞	杉浦 正幸	愛媛県西条市
農林水産大臣賞	関口 剛	愛媛県松山市
環境大臣賞	堀内 勇	和歌山県橋本市
水産庁長官賞	白石 信夫	愛媛県宇和島市
熊本県知事賞	前田 正憲	熊本県熊本市

みなみまぐろ保存委員会 第20回年次会合の結果について

資源管理部 国際課

1. はじめに

2013年10月14日から17日まで、アデレード（オーストラリア）において、みなみまぐろ保存委員会（CCSBT）第20回年次会合が開催されました。会議には、日本、オーストラリア、ニュージーランド、韓国、インドネシア、台湾（台湾が議論に参加するための枠組である拡大委員会のメンバー）の他、協力的非加盟国としてフィリピン及びEUが参加しました。我が国からは、長谷水産庁資源管理部審議官（日本政府代表）の他、水産庁、外務省、経済産業省、（独）水産総合研究センター、業界の関係者が出席しました。

みなみまぐろ保存委員会は、1994年に設立され、総漁獲可能量及び締約国等に対する割当量の決定やその他の保存措置の採択・実施を通じて、ミナミマグロの保存及び最適利用の確保を図っている地域漁業管理機関です。本年の年次会合においては、2014年のミナミマグロ漁獲可能量（TAC）の確認が行われたほか、新たに2015年～2017年のTACが合意されました。また、各国の遵守に関する議論が行われ、遵守強化のため、違法・無報告・無規制（IUU）漁船をリストアップする新たな措置等が採択されました。

2. 主な結果概要

(1) TACと国別割当量

CCSBTでは、2011年に、科学委員会が開発した管理方式（MP）の採択に合意しました。MPによる資源管理は、

まぐろ類の地域漁業管理機関では世界初となる画期的な試みです。MPとは、資源量の指数や科学調査の結果から、事前に定められた手続きに従ってTACを自動的に算出するルールであり、明確な数値目標のもと、資源量の動向に応じてTACを増減させることによって、資源の崩壊を回避しつつ漁獲を継続させ、目標を達成することを可能とします。CCSBTでは、2035年までに、70%の確率で、漁業が開始される前の産卵親魚資源量の20%の水準まで資源を再建するという中間管理目標を定めており、原則的に3年ごとにMPによるTACの勧告が行われることとなっています。

今年9月に行われた科学委員会で、2回目となるMPによるTACの算出が行われました。今回の年次会合では、このMPの勧告に基づき、2015年～2017年のTACに関する議論が行われました。その結果、2015年～2017年のTACについては、MPの勧告どおり1年あたり14,647トンとすることで合意しました。ただし、2016年及び2017年のTACについては、次回の年次会合において、科学委員会の助言を踏まえて再度確認することとなりました。これは、オーストラリアが、昨年約束していた蓄養向けのミナミマグロの漁獲量を正確に把握するためのステレオビデオモニタリングの導入を延期したことにより、漁獲量の不確実性が高い状態が続くことが問題視されたためです。

また、このTACの各メンバー国への割当にも合意しました。ミナミマグロTACの増加により日本への割当量も増加し、2015年～2017年には4,737トンが割り当てられることとなりました(表)。

なお、2014年のTACについては、2011年の合意のとおり、12,449トンとすることが確認されました。2014年のTACの割当に当たっては、2011年の合意に基づき、日本の保存管理措置に対する遵守状況がレビューされました。その結果、過去割当のシェアを大きく下げた日本に対して割増しして配分することが決定し、2014年の日本の割当は3,361トンとなりました。

我が国は従来より、科学的根拠に基づき、ミナミマグロ資源の回復を図りつつ、資源を有効利用するとの立場にたつてCCSBTに参加しています。今回のTACの増加は、CCSBTにおけるこれまでの資源管理の努力の成果と考えられます。一方で、科学的に必要であれば、これに従いTACを削減するなど、今後も科学的根拠を十分に尊重してミナミマグロ資源管理に取り組むことが最も重要と考えています。

表 ミナミマグロの総漁獲可能量と各メンバー別割当量(2014年～2017年)

(単位：トン)

	2014	2015～2017 (1年あたり)	(参考)2013
日本	3,361	4,737	2,703
豪州	5,151	5,665	4,713
NZ	910	1,000	833
韓国	1,036	1,140	948
台湾	1,036	1,140	948
インドネシア	750	750	709
南アフリカ	150 ^{*1}	150 ^{*1}	40
フィリピン	45	45	45
EU	10	10	10
調査死亡枠 ^{*2}	-	10	-
合計	12,449	14,647	10,949

*1 配分の増加は、南アがCCSBTに加盟することを条件とする。

*2 メンバー国が実施する科学調査のための枠

(2) 遵守の強化

CCSBT では、保存管理措置に対する遵守の強化が図られてきました。その一環として、今回の年次会合では、違法・無報告・無規制（IUU）漁船をリストアップし、これらの漁船に対して対策を講じることで遵守を強化していく措置が採択されました。

我が国としては、ミナミマグロの資源回復を確実なものとするため、これからも各国による遵守の強化に積極的に取り組んでいくこととしています。

3. 次回年次会合の予定

次回の年次会合は、2014年10月13日～16日に、オークランド（ニュージーランド）で開催される予定です。



年次会合の議場写真

回遊魚

人の行く裏に道あり花の山

生来の天邪鬼。私の基本的な性格を一言で述べれば、そうなる。

そんな私の最近お気に入りのフレーズが、表題の相場格言。

他の人と同じことをしないことで大きな成功を得られる可能性があるという意味にとらえている。

他を圧倒する力を持ち、真っ直ぐに王道をいくのが、あるべき姿であり、それに向かって努力し成果を出していくのが、本来尊ばれるのかもしれない。

しかしながら、様々な制約から、王道を歩むに足る力をもっていなかったり、もつ可能性が信じられない場面は結構多い。

そういった際に、進むのをあきらめることも選択肢の一つであるが、あきらめきれないときにはどうするか。力不足を自覚し、搦め手からの奇襲に活路を見いだすことも一案ではないだろうか。その際には、王道を歩む者には難しいが自分は活用できる条件を探して認識しておきたい。

数年前、5月5日の午後1時から札幌でイベントがあり、旅行しようとしたことがある。同じイベントに向かう友人たちは、4～5日の日程でツアーを申し込んだ。私は、何とか6日の休暇を願いし、5～6日のツアーにした。ツアー料金は、実に1/3になった。6日に休暇が取れたという条件に恵まれた面は確かにある。しかし、そもそも自分にとって他と比較して有利な部分は何かという点を認識した上で、その利点を最大限利用できる方策を考えるというのは、いかなる事案でも同じではないだろうか。

遊園地のアトラクションの選択にせよ、休暇時の旅行の行き方の選択にせよ、仕事の進め方の選択にせよ、全ての人に同じ状況はない。自分の状況を把握し、それに応じた選択をしていきたい。

ただし、いつも裏の道を探していたり、裏の道だからとルールを破ることを厭わないということは避けたい。ほどほどに裏を探りながら、コンプライアンスは確実に確保して、天邪鬼に日々を過ごしたいと思っている。



漁政部 加工流通課
水産物貿易対策室長
ひろやま ひさし
廣山 久志

発表年月日	発表事項名	担当課
H25.10.4	「日ロ漁業取締専門家会合」の結果について	国際課
H25.10.7	韓国底びき網漁船の拿捕について	管理課
H25.10.11	「みなみまぐろ保存委員会 (CCSBT) 第 20 回 年次会合」の開催について	国際課
H25.10.11	「平成 25 年度 磯焼け対策全国協議会」の開催及び一般傍聴について	整備課
H25.10.15	「2013 年度第二期北西太平洋鯨類捕獲調査 (沖合調査)」の調査航海の終了について	国際課
H25.10.17	「みなみまぐろ保存委員会 (CCSBT) 第 20 回 年次会合」の結果について	国際課
H25.10.18	「第 12 回 全国漁港漁場整備技術研究発表会」の開催及び参加者の募集について	整備課
H25.10.21	「南極の海洋生物資源の保存に関する委員会 (CCAMLR) 第 32 回 年次会合」の開催について	国際課
H25.10.21	「日・ソロモン漁業協議」の開催について	国際課
H25.10.23	小里農林水産大臣政務官の国内出張について	計画課
H25.10.23	「第 19 回 太平洋広域漁業調整委員会」の開催及び一般傍聴について	管理課
H25.10.23	資源管理・漁業経営安定対策の実施状況 (平成 25 年 9 月末現在) について	漁業保険管理官 企画課 栽培養殖課
H25.10.25	林農林水産大臣の国内出張について	栽培養殖課
H25.10.25	「第 26 回 瀬戸内海広域漁業調整委員会」の開催及び一般傍聴について	管理課
H25.10.25	平成 25 年度 第 1 回 対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報	漁場資源課
H25.10.29	「2013 年度第二期北西太平洋鯨類捕獲調査 (秋季沿岸域調査)」の終了について	国際課
H25.10.31	「平成 25 年度 我が国周辺水域の資源評価」の公表について	漁場資源課
H25.10.31	山陰沖海域における外国漁船の重点取締りについて	管理課

編集後記 “窓辺のカーテン”

気象庁の統計によりますと、本年の台風の発生数は 11 月 14 日現在の速報値で 31 と例年を大きく上回っております。中でも、台風 26 号では伊豆大島に大きな被害をもたらし、多くの人命が失われました。この場を借りて、お亡くなりになった方のご冥福をお祈り致します。また、フィリピンでも強烈な台風により甚大な被害となっております。台風に限らず、災害への備えを確かなものにしていくことが重要だと痛感しました。

「漁政の窓」では、皆様に水産施策についてわかりやすくお伝えできるよう努めていきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

ご意見やご質問がありましたら、以下にお願いいたします。

水産庁施策情報誌 **漁政の窓**

編集・発行 水産庁漁政部漁政課広報班

〒100-8907 東京都千代田区霞が関 1-2-1 合同庁舎 1 号館 8 階

代表 03-3502-8111 (内線 6505)

URL <http://www.jfa.maff.go.jp/>

ご意見 ご質問はこちらへ ➡ URL <http://www.maff.go.jp/j/apply/recp/index.html>